

2009年ワールドベースボール・クラシックを振り返って 事務局長 佐藤 宏

3月5日対中国戦が東京ラウンドの幕開けでした。前回の2006年の大会では、ほとんど注目されなかった東京ラウンドでしたが、今回は違いました。宮崎合宿でも多くのファンを動員した侍ジャパンは、前哨戦ともいえるオーストラリア戦に2戦とも大勝して強さを誇示しました。初戦では中国を相手に、もう少し点が取れたのではないかという悔いは残りましたが、終わってみれば4-0の完勝でした。さらに7日の韓国戦、接戦が予想されましたが、試合が始まると侍ジャパンが打つわ、打つわ、最後は14-2でコールド勝ちという誰も予測できない結果となりました。

しかし、ここから物語はやや暗転をしはじめます。ダブルエリミネーション方式の弊害とも言われましたが、侍ジャパンは1度勝った韓国とまた戦うことになりました。その試合が0-1で惜敗という結果に終わり、予選は通過したもののA組2位で、サンディエゴ・ラウンドの初戦は、B組1位のキューバと対戦ということになりました。ご存じのようにキューバは世界ランク1位ということもあり、行方が案じられました。しかし、こうした危惧も試合が始まってみれば、松坂投手の好投によって、拭い去られました。スコアも6-0の完勝でした。ここで三度、決勝ラウンド進出をかけて、韓国との対戦となりました。国際大会といいながら韓国とばかり戦っているという印象です。韓国はダルビッシュ投手の立ち上がりを攻め、前半で試合を決めてしまいました。一方の侍ジャパンは韓国投手陣を打ちあぐね、1-4で敗れてしまいました。

文字通りあとの無くなった侍ジャパン、再びキューバとの対戦となります。この試合は岩隈一杉内投手の好リレーもあり、5-0のスコアで危なげなく勝ちきることができました。4度目の対決となった韓国戦は若手投手陣の活躍もあり、6-2で快勝、サンディエゴ・ラウンドを1位で通過し、見事決勝ラウンド進出を果たしました。

決勝ラウンドの対戦相手はアメリカでしたが、4回をビッグイニングにして5点を獲得し、逆転のすえ9-4で制しました。ここでも松坂投手の好投は光りました。韓国との決勝戦については、皆さんそれぞれにご感想をお持ちだと思いますので、あえて触れません。しかしながら、イチロー選手の決定打と松坂投手のMVP獲得は、わたしたちの胸に深く刻まれました。

NPBをはじめ関係各位の迅速かつ絶大なご尽力により、記者会見の翌日の3月26日からWBCのトロフィーを展示できることになりました。トロフィーに対する関心の高さは圧倒的で、4月2日までの8日間で入館者は25,405人を記録し、これは年間入館者の5分の1に相当する人数であり、博物館開館以来の快挙となりました。



左・2006年 右・2009年の優勝トロフィー（4月2日まで）



混雑する入口

もの
知ってほしいこんな資料 (66)

当館では2009ワールド・ベースボール・クラシック開催を記念し、企画展「WBC展」を開催（期間2月10日～4月5日）、日本代表を応援する展示を行いました。今回も展示の準備段階から日本代表チームのスタッフに資料の収集を依頼、スタッフの皆さんが激務のなか集めて下さった資料をタイムリーに展示し、本当にたくさんのファンの方たちにご覧いただくことができました。今回はその、2009WBC関連資料と展示をご紹介します。

優勝トロフィー



トロフィー見学の行列

2009WBC優勝トロフィーは、3月25日に凱旋帰国した日本代表とともに日本へ到着。同夜の帰国会見で、それまで当館で展示していた前回2006WBC優勝トロフィーと並べて展示されました。そして、翌26日の午前9時30分過ぎ、2006、2009の2つのトロフィーと一緒に当館に到着。すぐにエントランスホールのWBC特別展示コーナーに並べて展示し、当日の開館10時より公開しました。また、2009決勝戦、第2戦韓国戦、初戦中国戦の3つのウイニングボールも併せて展示しました。

展示初日の26日以降、多くのメディアが取材に来館し展示を紹介いただいたこともあり、4月2日までの8日間で25,405人という非常に多くのお客様にご来館いただきました。なお2009トロフィーは5月中旬にかけ12球団本拠地を巡回中です。その後、時期は未定ですが再び当館で展示する予定で、詳しいスケジュールが分かり次第ホームページなどで告知します。

ウイニングボール

今大会も前回大会に続いて、ウイニングボールの展示を行うことができました。まず、3月5日初戦の中国戦のボールは、原監督からスタッフの手を経て翌6日の午前11時前に当館に到着、すぐにエントランスホールの展示に追加しました。原監督のサイン、「09.3.5 対中国」、「侍ジャパン「日本力」（にほんちから）」と記されています。また、7日の韓国戦も、同じように翌8日午前11時前から展示に追加しています。こちらも原監督のサイン、「2009.3.7」「対韓国」、「「日本力」」が記されています。



2009WBC決勝戦ウイニングボール

23日の決勝戦対韓国戦、延長10回の激闘を制した際のウイニングボールは、25日に日本代表とともに日本に到着、翌26日にトロフィーとともに当館に搬入されました。トロフィーと一緒に展示に追加し、同日の開館より公開しています。ボールには原監督のサインと「侍ジャパン」、「09.3.23」、「V2 王監督に続いた！」と喜びのメッセージが記されています。これらウイニングボールは引き続き、エントランスホールWBC特別展示コーナーで展示しています。

ユニホーム、選手の用具

ユニホームや選手の用具は、日本代表帰国翌日の3月26日午後3時過ぎに、NPBオフィスで日本代表スタッフから受け取りました。当館へ持ち帰り、展示の準備をはじめ、閉館後に常設展示の日本代表コーナーにて展示作業を行いました。

原監督はじめ、コーチ、選手着用のユニホーム（ホーム・ビジター各1着。村田選手、栗原選手を除く）には、背番号周辺にそれぞれのサインが入れられており、背中を正面にして一堂に展示しています。また、松坂 大輔投手のスパイク（サインと「MVP」が記入）、イチロー選手のシューズ、城島 健司選手のマスク、プロテクター、レガース、岩村 明憲選手のバット、福留 孝介選手のバット、中島 裕之選手のバット、スパイク、小笠



常設展示 日本代表コーナー



松坂投手スパイク

原 道大選手のスパイクに加え、侍ジャパンのサインボール、王 貞治前監督と原監督のサインボール、優勝記念キャップとTシャツも同時に展示しました。この展示は翌27日の開館から公開となり、ファンの絶好の撮影スポットとなっております、人気を集めています。

また、4月3日には亀井 義行選手のスパイク、10日には岩隈 久志投手のスパイクが到着し、新たに展示に変わりました。これら資料もWBC展終了後も引き続き展示中で、4月末からは今大会の写真も加えて展示する予定です。ぜひご覧ください。

学芸員 関口 貴広

野球体育博物館 創立50周年記念特別展

▶「王 貞治 50年の球跡展」

会場 野球体育博物館 企画展示室
主催 財団法人 野球体育博物館

会期 2009年4月10日(金)～5月31日(日)
写真協力 ベースボール・マガジン社

当館では50周年記念特別展の第一弾として「王 貞治 50年の球跡展」を開催中です。

王 貞治氏は、当館が開館した1959年にプロ野球選手としてデビュー。現役時代のホームランバット（700・714・756・800）やホームランボール（600・700・715・755・756・800）をはじめ、2006年WBCや福岡ソフトバンクホークス監督時代の資料まで、多くの展示品と写真や記録パネル、計68点を展示し、王氏のプロ野球50年の足跡を紹介しています。



▶50周年記念展 開催のお知らせ

2009年6月12日、野球体育博物館は創立50周年を迎えます。これを記念して開催中の「王 貞治 50年の球跡展」をはじめ、下記の特別展を開催します。

50周年記念特別展の日程は次の通りです。

- 「野球殿堂50年のあゆみ展」 6月5日(金)～7月20日(月・祝)
- 「都市対抗80回大会記念展」 7月24日(金)～9月6日(日)
- 「大学野球展」 9月12日(土)～10月12日(月・祝)
- 「プロ野球2リーグ制60周年展」 10月17日(土)～2010年1月17日(日)

なお、詳細につきましてはそれぞれの会期1ヶ月前に当館ホームページに掲載します。

コラム／博覧・博楽 (30)



気合を入れて球団経営を

浜田 昭八（野球体育博物館維持会員 スポーツライター）

1956年から半世紀以上、あきもせず野球取材を続けている。終戦間もない46年、疎開先高知の市営球場で阪神－パシフィック（横浜ベイスターズの“先祖”）を観戦して以来、野球のとりこになった。試合の内容、結果は全く覚えていない。しかし、阪神・藤村 富美男選手らが試合前のウォームアップで見た3人ひと組のペッパーゲーム（トスバティング）でのコミカルな動きは鮮やかに覚えている。

野球が好きになるきっかけは、案外このような試合以外のことが面白かったからというケースが多いのではないかと。さしずめ今ならイチローの背面キャッチ。WBC侍ジャパンの宮崎合宿でも、詰めかけた4万人のファンが一番沸いていた。あれをまぶたに焼き付けて、球場通いを続けるようになる少年少女が何人もいることだろう。

野球は生で見るに限ると思う。テレビ観戦だと、バッテリー間を拡大した解剖的考察になってしまう。カメラの枠の外にも、面白く楽しいことがいっぱいある。こまめにシフトする内野手、忠実にバックアップに向かう捕手、外野手の動きは見ていて気持ちがいい。最近では高校球児も地味だが忠実な動きを見せるようになった。今春の選抜甲子園大会に出場した花巻東の野手陣などは、模範的な備え、動きを見せていた。

球場へ足を運ぶ楽しみに、打撃練習を見ることがある。ポンポンとスタンドへ打ち込む主砲、鋭いセンター返しや右打ちをする先兵役の練習をたっぷり見物できる。練習での好調をそのまま維持する選手がいる一方で、試合では別人のように打てない者もいる。それだけ打撃は難しいのだが、勝負強さや弱さが分かって興味深い。

さらに、ウォームアップで手抜きする様子や、相手チームにいる学校や郷里の先輩に挨拶する姿に、ユニホーム組の思いがけない人間性がのぞく。ところが、現状ではファンが一番みたいホームチームの練習を見ることができない。二ヶ所で打撃練習をするので、観客の安全を考慮してのこと。開門した時には、ホームの主力選手の姿はない。一時期、パ・リーグでホームの練習を公開したことがあったが、これを是非再開してほしい。

野球記者は56年に大阪でスタートした。このときのプロ野球界はセ6、パ8の14球団。58年に現行のセ、パ各6の12球団に落ちついたが、経営母体は全く落ちつかなかった。68年に東京転勤になって32年間東京に住み、2000年夏に取材の本拠を関西へ移した。上京するときには阪神、阪急、南海、近鉄が関西でしのぎを削っていたが、戻ったときには南海がダイエーとなって、福岡へ本拠地を移していた。

さらに、2005年にはオリックスと近鉄が統合した。経済、社会の変動に伴って野球界も姿を変える。それは仕方がないことだが、ひいきチームが忽然と消えるファンの嘆きに野球関係者は思いを巡らせたことがあるだろうか。関西4球団が2球団に減ったのは、興行として適正規模と言えるかも知れない。球界再編は九州に再びホームチームを作り、北海道、東北に“われらのチーム”を生んだ。それは非常に喜ばしいことだが……。

そこで望みたいのは、球団を持つなら腰を据え、気合をいれて経営してほしいということだ。どこを応援するにしても、「ウチは親子三代にわたって△△のファン」という一家が、日本国中にあふれないかと願っている。

殿堂入りの人々を語る (23)



1973年殿堂入り
天野 貞祐氏レリーフ

祖父・天野 貞祐の思い出

天野 ヒ口子 (天野 貞祐氏 孫)

天野 貞祐と聞いても今の若い方々にはわからないのでは…と思いますので少しお話し致します。カント哲学研究の哲学者であり、現麻生内閣総理大臣のおじい様、吉田 茂内閣で民間から文部大臣として入閣を請われ入閣、後に獨協大学を創設し96才で亡くなりました。

野球と祖父…そのつながりを子供心にも不思議に思っていました。祖父はとても野球が好きで獨協中学在学中に身体が小さいにも関わらず野球部へ入部し、どんなにか楽しそうに過ごしていたかと想像が膨らむ想いです。しかし、足の怪我から無理がたたり休学、一時退学するまでとなり断念に至ったようです。それから時間が過ぎ、文部大臣時代の甲子園での始球式は、とても幸せだったことでしょう。今でもその時の素晴らしい投球姿の写真が残っております。そして晩年には特にテレビで高校野球を好んで見ておりました。……ちょっと自慢げなあの笑顔が今でも目に浮かんできます。

そして不思議なDNAと申しましょうか、私の長男・祐一郎が獨協中学～高校で野球部に属し、祖父と同じく身体が小さかったので心配でしたが、セカンドとしてレギュラー入りをさせていただいていたのも、背中に祖父がくっついていたのかも知れません。でも残念ながらお勉強のDNAは受け継がなかったようです…。

私の父は長男でしたが戦後大阪に住んでいたため、一人娘の私は春や夏休みになると吉祥寺の祖父の家へ一人来ておりました。祖父は掘りごたつの決まった席に座り、学生さん達からの沢山のお手紙を読むことがとても楽しそうでした。また、子供心にびっくりする程の早寝早起きで、ひとたび寝入ると泊まりに来ていた又従兄弟が「近くにブタ小屋でもあるの？」と聞くほどの大きなイビキでした。これには大笑いでしたが、これもまた長生きの秘訣だったのかもしれない。そしてよく祖父は、「ただ毎日机にかじりついていたら勉強だけができるのは当たり前だよ。人間はね、必ず何か得意なものがあるはずだから、勉強だけが人間の価値じゃないことを忘れずに…」とっておりました。ですが私にはなぐさめにしか聞こえませんでした。と申しますのも、私はお勉強よりテレビが大好きで毎日の番組時刻や内容を細かくすべて覚えていたので、祖父に「テレビのことは新聞よりヒロ子に聞くほうが詳しいねえ…」と大変面白がられ、『テレビ博士』と言われていました。私が不満そうな顔をすると祖父は目がなくなるほどのニコニコ顔で、「テレビ博士は立派な博士だよ！」と喜んでくれました。同じように、車のエンジン音が大好きな同い年の従兄弟がいましたが、彼は『車博士』と名づけられ、後にカーレースのサポート等の仕事に就き世界中を転戦しております。

祖父からの愉快的な博士号もちょっと鈍ってきている私ですが、今は祖父が暮らしていた吉祥寺の住所に住んでおります。

さてさて私の孫には何の博士号をつけましょうか…と楽しんで眺めながら祖父の笑顔を懐かしんでおります。

📖 こんにちは図書室です 📖

オリンピック各大会の報告書とオリンピック読本

今年の10月に2016年オリンピックの開催地とその大会で行われる競技が決まります。野球がオリンピックの正式競技に復帰するかどうかはこの10月の総会で決定します。

図書室には報告書、写真集、選手の伝記などオリンピックに関する本も所蔵しています。その中から各大会の報告書と子ども向けの東京オリンピックの資料を簡単にご紹介します。

「オリンピックの報告書」

オリンピックの報告書は、大会の競技種目別の記録だけではなく、選手選考の経緯や反省など掲載されています。下の表は所蔵している日本の公式報告書です。

開催地・開催年	書名	出版年	出来事	
パリ (1924年)	第八回巴里国際オリムピック競技大会報告書	大日本体育協会	1925	内藤 克俊がレスリングフリースタイルで銅メダルを獲得。
アムステルダム (1928年)	第九回国際オリムピック競技大会	大日本体育協会	1930	三段跳びで、織田 幹雄選手が日本人初の金メダルを獲得。
ロサンゼルス (1932年)	第十回オリムピック大会報告	大日本体育協会	1933	馬術・大賞典障害飛越個人で西 竹一選手が優勝。
ベルリン (1936年)	第十一回オリンピック大会報告書	大日本体育協会	1937	水泳・女子200メートル平泳ぎで前畑 秀子選手が金メダル。日本人女性初の金メダリストとなる。
東京 (1940年)	第十二回オリンピック東京大会東京市報告書	東京市役所	1939	東京開催が決定していたが、1938年に大会を返上。
	報告書	第十二回オリムピック東京大会組織委員会	1939	
ヘルシンキ (1952年)	第十五回オリンピック大会報告書	日本体育協会	1953	16年ぶりに日本がオリンピックに参加。
メルボルン (1956年)	第16 オリンピアード大会報告書	日本体育協会	1958	この大会日本は金メダル4個、銀メダル10個、銅メダル5個を獲得。
ローマ (1960年)	第17回オリンピック大会報告書	日本体育協会	1962	体操・団体、種目別で4個の金メダル。
東京 (1964年)	第18回オリンピック競技大会報告書	日本体育協会	1965	アジアで開催された初めてのオリンピック。金メダル獲得数はアメリカ。ソ連に次いで3位の16個。
	第18回オリンピック競技大会東京都報告書	東京都	1965	
メキシコ/グルノーブル (1968年)	第19回オリンピック競技大会	日本体育協会	1969	サッカーで日本が銅メダルを獲得する。
	第10回オリンピック冬季競技大会報告書			
ミュンヘン (1972年)	第20回オリンピック競技大会報告書	日本体育協会 日本オリンピック委員会	1973	水泳でマーク・スピッツが出場した7種目すべてに世界新記録を出して金メダル。
モントリオール (1976年)	第21回オリンピック競技大会報告書	日本体育協会 日本オリンピック委員会	1976	ルーマニアのナディア・コマネチが10点満点を連発し日本でも人気になる。
モスクワ (1980年)	第22回オリンピック競技大会報告書	日本体育協会 日本オリンピック委員会	1981	日本は参加せず。
ロサンゼルス (1984年)	第23回オリンピック競技大会報告書	日本体育協会 日本オリンピック委員会	1984	具志堅 幸司が体操個人総合で、森末 慎二が鉄棒で金メダル。

また、1932年ロサンゼルスオリンピックのOfficial Reportや、1964年東京オリンピックの報告書（英語版やフランス語版）など外国語の書籍も所蔵しています。なお、オリンピック各大会開催国の公式報告書は「知ってほしいこんな資料 (62)」でもご紹介したLA84 Foundationのデジタルアーカイブ (http://www.la84foundation.org/5va/books_frmst.htm) で見ることができます。

「オリンピック読本」



1964年、東京オリンピックが始まる前に文部省が小学生向け、中学生向け、高校生・青少年向けの「オリンピック読本」を出しています。小学生向けの内容はオリンピックの歴史、それまでの大会で活躍した選手、オリンピックの日程や競技種目、などがわかりやすく説明してあります。また、ヘルシンキ、メルボルン、ローマの3大会に出場し合計12個（金4・銀4・銅4）のメダルを獲得した、体操小野 喬選手（東京大会では体操団体で金メダル）のメッセージも掲載しています。高校生向けにはオリンピック東京大会の概要や、近代オリンピックの歴史と理想を掲載しています。加えて、スポーツの普及状況、競技技術の向上、スポーツ施設の拡充、日本スポーツの将来など、日本でのスポーツの現状を表やグラフによって

わかりやすく説明しています。この中で軟式野球は日本で最も多く行われているスポーツとして紹介されています。また、オリンピックを迎える国民のあり方として、社会の規律「ルール」を守る勇気をもつこと、自己を確立し、群集心理をセーブすること、相手を許し、ユーモアを解する気持ちのゆとりをもつことなど、国民全体が意識しなければならない高いモラルが掲げられています。

2016年オリンピックが東京で開催されれば52年ぶりです。このスポーツの祭典を大会の歴史から振り返ってはいかがでしょうか。
司書 茅根 拓

● 2009年度 維持会員募集！ ●

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万点を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

▶ 会員特典

- ・当博物館発行「ニュースレター」(季刊)の送付
- ・何度でも無料で博物館に入館できる優待証を発行
- ・会員以外の方でも利用できる博物館招待券
- ・イベント情報などを優先的にご案内
- ・ミュージアムショップのお買い物を10%割引
- ・クーパースタウンの野球殿堂の入場料が無料
- ・「野球殿堂1959-2009」贈呈(ジュニア会員除く)



▶ 会員の種類と会費

- 維持会員には、法人、個人、ジュニア会員があります。
- 年会費(4月～翌年3月迄)
- ・法人会員 1口 10万円
 - ・個人会員 1口 1万円
 - ・ジュニア会員(小中学生) 1口 2千円
- *個人会員は、入会月により、初年度年会費の割引があります。

▶ お問合せ

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
財団法人野球体育博物館 業務部
TEL: 03-3811-3600 FAX: 03-3811-5369

博物館からのお知らせ

販売中!

▶ 野球殿堂入り記念直筆サインボール



野球殿堂入りされた堀内 恒夫氏、若松 勉氏、王 貞治氏の直筆サインボールを販売します。

ご購入希望の方は、当館ホームページをご覧ください。
(<http://www.baseball-museum.or.jp>)

・商品説明

- [ボール] NPB公式ボール 直筆サイン入り
- [素材] ケース:ガラス/台座:木製
- [色] ケース:透明/台座:ブラウン
- [サイズ] ボールケース:縦14.5cm×横13cm×奥行(台座含)13cm
- [付属品] 野球体育博物館証明書、野球殿堂1959-2009(書籍)、野球体育博物館ご入館券(6枚)
- [価格] 堀内 恒夫氏 25,000円(税込)
若松 勉氏 25,000円(税込)
王 貞治氏 (予定) 30,000円(税込)

▶ 「野球殿堂 1959-2009」を刊行!

開館50周年記念として「野球殿堂 1959-2009」を刊行しました。

(本書内容)

- 1959～2009年までに殿堂入りされた168名の球歴・プロフィール
 - 日本プロ野球で監督、選手経験者の年度別打撃・投手・監督成績付
 - 野球殿堂コラム
 - 写真で振り返る「野球体育博物館50年」
 - 鎮魂の碑
 - 戦没野球人
 - 表彰委員会規程・変遷
- 全215ページ 発行 株式会社ベースボール・マガジン社 定価 2,500円(税込)



● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大 人 500円(300円) } ()は
小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
65歳以上 300円
休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日～1月1日)

《5月・6月・7月の休館日》

- 5月 11日、18日
 - 6月 1日、15日、22日、29日
 - 7月 6日
- *7月7日～9月6日まで無休となります。

《開館時間延長》

下記の通り東京ドームで行われるプロ野球の試合が午後2時開始の場合、開館時間を午後7時まで延長いたします。
(入館は閉館の30分前までをお願いいたします)
ぜひ、ご来館ください。

- 5月 10日(日)
- 6月 21日(日)、28日(日)
- 7月 19日(日)
- 8月 8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)
- 9月 5日(土)、6日(日)、21日(月)、22日(火)、23日(水)、27日(日)

【訂正】前号(2009年1月25日発行 Vol.18/No.4)で以下の通り訂正があります。

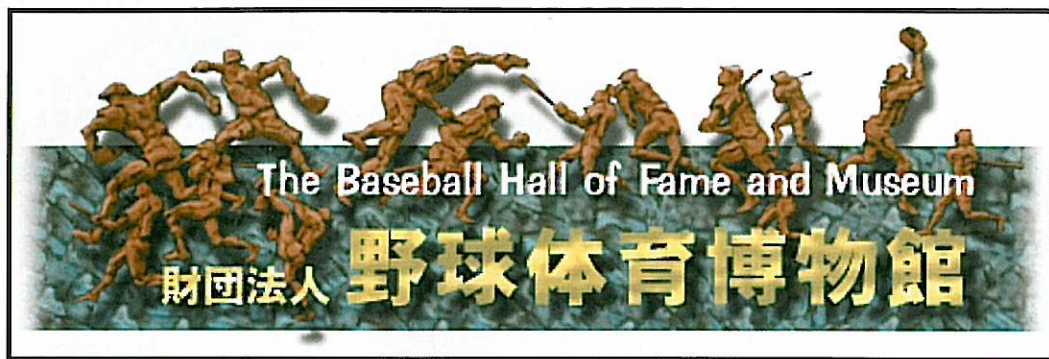
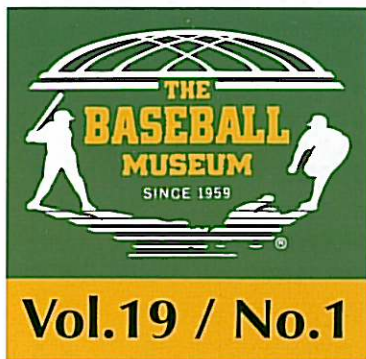
- 4ページ 上から2行目 「牧 哲夫」→「牧 啓夫」
 - 5ページ 下から15行目 「花買翁」→「花売翁」
- 謹んでお詫びし、訂正いたします。

● 編集後記

6月12日に当館は開館50周年を迎えます。50周年記念に関するお知らせは、当館ホームページに掲載しますので、ぜひご覧いただきご来館下さい。よろしく願いいたします。

Newsletter Vol.19 / No.1

2009年4月25日発行
編集・発行 財団法人 野球体育博物館
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03 (3811) 3600 Fax 03 (3811) 5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>
定 価 100円



リレー随筆(36)

競技者表彰委員会幹事 安藤 宏樹 (日刊スポーツ新聞 大阪本社)

まさか3月に、こんなシーンに出会えるとは思ひもなかった。第2回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)。日本と韓国の決勝は、これからそれぞれのチームに戻ってシーズンインする選手たちとはとても思えない、体を張ったプレーの連続だった。

日本のプロ野球で、酷似した場面に出くわしたことがある。88年、川崎球場でのロッテ対近鉄ダブルヘッター。そして94年、中日と巨人の最終試合優勝決定戦。いわゆる「10・19」と「10・8」。今も語り継がれる伝説の試合を、いずれも担当記者として取材できたことは幸運の極みだが、どちらのゲームも選手たちは、体を張り、次々と傷つき、それでも立ち向かっていった。

そして、今回は世界トップレベルの技術を誇る男たちが、後先を考えず、極限の姿をさらけ出す。ただ、その一点だけで心が震えた。

WBCについては、運営方式や球数制限などの特別ルールに異論が絶えないと聞く。もちろん、各論で我々メディアも検証、提言をしていくことは必要だろう。だが、総論として、こういったイベントが野球界全体にとってプラスであるということに改めて実感したことも確かだ。「とにかく、まずはやってみようよ」。第1回大会で優勝した王 貞治日本代表監督が、大会前、賛否両論渦巻く中で発した一言の重みと正しさを、今さらながら確認できた。

日本球界を取り巻く環境は厳しさを増すばかりだ。生活の根幹をなす経済面でも深刻な不況の波が次々と押し寄せてくる。グローバル化に対する功罪の評価は経済でも野球でも難しいだろう。しかし、現実問題として、避けては通れない。ならば、世界基準の舞台をさらに活性化させ、極限の状況を作り出せる設定をさらに用意することに意義を見出せないだろうか。

一方で日本国内に、より魅力的なイベントがあってもいい。例えば、日本一トーナメント決定戦。プロからはセ・パ両リーグの優勝チーム。社会人からは都市対抗、日本選手権。大学からは選手権、神宮大会の覇者。そして高校からは春夏甲子園Vチームが参加して日本一を争う。最近、各地で活発化している独立リーグからの参加も歓迎だ。

いささか極端な話。しかし、そんなイベントに対するニーズは少なからずあるはずだ。「各団体の競技日程が終了した秋口にこんなイベントがあったらなあ」とある球界関係者に話したところ「そんなこと、出来るわけないでしょう」と一刀両断された。

それぞれが歴史と伝統を持つ競技団体で、事情もさまざま。小さな事務折衝をするだけでも、膨大なエネルギーと時間がかかる。障壁がいかに高いかを、その関係者はていねいに説明してくれた。もちろん各競技団体は、試行錯誤を繰り返す中で、新たな提案をし、プロアマ交流に着手するなど、歩を進めている。けれども、グローバル化の中で鎖国政策を続けられれば、縮小均衡に陥るしかないように、国内でもできるだけ早く縦割り行政を解消しなければ、日本の球界が行き詰まることになりはしないだろうか。

2008年度のプロ野球球団別観客動員数を見ると、阪神、巨人の1位、2位球団は若干ながら前年比マイナス。地域密着型の運営を進めるパ・リーグ各球団の健闘でトータルとしては2164万人と前年比2%増という数字が出ているものの、日本の野球界を底上げするための新たな仕掛けは必要だろう。

そして、私のような口先だけの突飛な話でなく、責任と実行力を伴ったアイデアが浮上した時に「とにかく、まずはやってみようよ」と発してくれる影響力のある方が、再び出てきて欲しい。